



イラク：アメリカ 新たに不毛な虐殺を準備

アメリカ帝国主義打倒！イラク防衛！



“Death Mile” デス・マイル。1991年2月25日の米軍により行われた大虐殺直後の、クウェートからイラクへ伸びるハイウェイの様子。上空を飛び交う米軍の軍用機やヘリコプターが数時間に渡って、救急車も含めたすべての車両を破壊し、逃げ惑う何千ものイラク人を殺害した。それは戦闘でなく、冷血な虐殺だった

(写真：E.アダムス／コービス・シグマ)

ペンタゴンの先制攻撃戦略—第3次世界大戦への傾き

以下は昨年10月17日に出されたインターナショナリスト・グループ（「第四インターナショナル再生をめざす同盟」アメリカ支部）の声明である。

チグリス川とユーフラテス川の流域で、帝国主義戦争犯罪者達は最終戦争（ハルマゲドン）を始めようとしている。

10月11日早朝、アメリカ上院議会は下院議会に同調し、ジョージ・W. ブッシュ大統領が「適切かつ必要であるとみなす」イラクに対する帝国主義戦争の機構を全面的に動かす権限を、同大統領に与えた。これによりペンタゴンは、ホワイトハウスが長らく待ち望んでいた理由なき悲惨な戦争を始めるにあたっての青信号を、2大政党から得た事になる。議会での討論はいつも通り形だけであり、この承認を得た後でも国連でまた、同じようなジャスターゲームが行われるだろう。この帝国主義「列強」の泥棒の巣窟（かつてレーニンが国連の前身である国際連盟をそう呼んだ）では、イラクに対する挑発的な「査察」がどのくらい必要なのか、または攻撃開始の引き金は何段階の決議により引かれるのか、押し問答をすることだろう。サダム・フセインは、国連軍がイラク内部を自由に移動できるように要求され、彼が受け入れられるはずもない（ユーゴスラビアのミロシェビッチに、かくて国連が行ったような）最後通牒を突きつけられることになるだろう。それは戦闘の無い侵略である。

そして遅かれ早かれ、アメリカのイラク侵略は発動され、バグダッドの爆撃は始まり、そしてイラク人の血は砂漠の上に川のように流れるだろう。

我々「第4インターナショナル再生をめざす同盟」と、そのアメリカ支部であるインターナショナリスト・グループは、世界の労働者階級に呼びかける。イラクを防衛せよ。そして「国内」と国外で、帝国主義戦争を打ち破るために闘え。アメリカ「超大国」は、世界で2番目に大きな石油産出国の支配を握るため大規模殺戮を行うことにより、その軍事力を誇示し、世界(その「同盟国」を含む)を脅迫するつもりなのだ。イラクとの戦争は、労働者、黒人、ラテン・アメリカ系のマイノリティー、その他の移民やアメリカで富を生産している全ての人々に対する戦争であり、またアメリカで巨万の富を独り占めする企業犯罪者のための戦争でもある。それは更なる戦争のために軍備を増強するのが目的の戦争だ。資本主義がもたらす殺戮であり、不況政策のために兵器が作られるようなシステムがある限り、戦争と人種差別、貧困は、永遠になくならない。今日、アメリカの支配者は「9月11日」という呪文を、人々を困惑させ、戦争を正当化するために利用している。表向き「自由」なメディアは、実際は戦争の報道には足かせをされている。しかし、いくらバグダッドからのニュースを検閲し、巡航ミサイルの映像が米兵の遺体袋にすり替えられたとしても、戦争に反対する人は増えるだろう。世界の石油をコントロールし、人々の血を吸って手にした帝国の「栄光」が、イラクの庶民の不幸を意味し、アメリカの労働者階級の人々にも全面的な攻撃となるのだということを、我々は目の当たりにする事になるだろう。

この切迫した虐殺に反対する力を動員することは至急必要である。しかしどのようにするのか。イラクとの戦いに反対するデモ行進は、すでにロンドンで40万人の人々により行われ、そしてその半分くらいの人々もイタリアでデモを行った。10月26日にはワシントンD.C.で抗議運動が起こり、「始まる前に、戦争を止めろ」(あたかも、かつて戦争が止められたことがあったかのように)と呼びかけられた。今後数週間のうち、何万何十万という人々が戦争反対のデモに参加するだろう。しかし、反戦デモの参加者に対して、聖職者はモラルを訴え、表向きは対立する「タカ」派と「ハト」派のブルジョア政治家連中は間抜けな演説をし、官僚は中身が空っぽの美辞麗句を述べるだけだ。こうした連中は、自分たちの支持する資本主義体制を危険にさらすようなことは何もしない。自称社会主義者が表舞台に時々出てきて、何かの「キャンペーン」だ、「共同」だ、「動員」だと言いながら、若者を説き伏せようとする。大量殺戮は、いくら平和運動をして「良心」に訴えても止めることはできないということは、彼らは口にしない。「より人道的な」外交政策、あるいは多国間のアプローチの要請などというのはナンセンスだ。ワシントンの戦争屋どもには、アピールも世論調査も通じない。彼らは打ち負かされなければならない。ブルジョア平和主義に対置して、我々共産主義者は、**帝国主義戦争に反対する階級戦争**を呼びかける。

米軍はイラクで地下攻撃に核兵器の使用を計画



1991年の湾岸戦争で対化学兵器防御服を着た兵士達

貧しく半植民地状態にあるこの国への侵略は ムッソリーニによる1935年のエチオピア

ア侵攻をほうふつさせるあくどい帝国主義の侵略攻撃だ。サダム・フセインのようなちっぽけな独裁者が起こした殺戮は、これから封印を解かれるホワイトハウスに居座っている本当の「バグダッドの虐殺者」の殺戮に比べると、比較にならないほど小さなものだ。ワシントンは架空のイラクの「脅威」のために戦争をするのではない。アメリカ帝国主義は世界にそのヘゲモニーを力で押し付けるために、この戦争を必要としているのだ。1999年には、民主党のクリントンが、コソボの「人権」の名の下に、ユーゴスラビア・ベオグラードの病院を爆撃した。去年は、共和党のブッシュが、9月11日の世界貿易センターテロ事件を口実にアフガニスタンを征服した。今度は、湾岸戦争の時にブッシュ1世がやり残した「仕事」を2世が成し遂げようとしているのだ。アメリカは「テロとの戦い」という言葉を繰り返して、世界を第3の帝国主義戦争へと引きずり込もうとしている。そして、その究極の標的は、イラク攻撃にあまり積極的でない日本やヨーロッパの国々なのである。

国連安全保障理事会で、ヨーロッパ諸国やロシア、中国などは、イラクに大量破壊兵器の査察団を派遣するように表明している（ブッシュ政権が査察団の派遣に反対するのは、ただ単に攻撃を遅らせたくないからで、大量破壊兵器がフセインの手に渡ると脅威であるというのは口実であり、「臆病なりペラル」を呼び寄せるためのエサでしかない）。この差し迫った帝国主義者の攻撃の犠牲者にとって、このような査察行為がスパイ行為として利用されるのは間違いない。アメリカは今、1998年11月にイラクが国連の査察団を「追放」と主張しているが、実際には国連は撤退したのである。それは、12月の「『砂漠の狐』（第2次世界大戦時のドイツ軍ロンメルから付けられた）作戦」で、アメリカのバグダッド爆撃に道を開くためだったのだ。イラクは、当時、査察団がアメリカに秘密裏に情報をもらっていたと訴えた。「UNSCOM」検査官に変装したCIAとNSAの代理人が、精巧な盗聴器を仕掛け、その情報がアメリカの爆撃に利用されたことは、その後明らかになっている。

イラクに対する様々な「制裁」や「査察」が「適法」なのかどうかを論ずるのは、ばかげている。「飛行禁止領域」と呼ばれるイラクの3分の2を占める部分でのイラクの飛行機の飛行を禁止し、NATO機の飛行は許可するという法令は、米英のみによって定められた。国連による経済制裁により石油輸出が制限され、さらに医療器具や、最低限の電力を発電するだけの発電所の修理に必要な物資の輸入も禁止され、上水道は湾岸戦争の際、アメリカ率いる多国籍軍に計画的に破壊されてしまっている。最終的にイラク人の死者は、予防出来たのにもかかわらず病気で死んだ100万人の子供や、バグダッド、バスラおよび他の都市に対するアメリカの攻撃で死んだ20万人を含めると、150万人以上にもなる。過去10余年来にわたって中東でもっとも繁栄していたイラクは、国連の制裁によって恐ろしい貧困へと追い込まれた。そして今、ブッシュと彼のプードル犬（イギリス首相トニー・ブレア）は、この悲惨な状況をさらに深刻化させ、数え切れないほど多くの人々の命を奪おうと準備している。そしてアメリカは、イラク人がアメリカの「同盟国」の爆撃機を「解放者」として歓迎するのが当然だと思っているのだ！

帝国主義に反対する者は、イラクに対する「査察」要求を拒否し、あらゆる国連のイラクに対する「制裁」に反対すべきである。これらの査察や制裁は、フセイン政権と1990年から91年の湾岸戦争で敗北したイラクの人々に対する処罰以外の何者でもない。米帝国主義は、莫大な量の核兵器を保有しており（その一部は日本に対して使用された）、化学兵器や生物化学兵器（ベトナムで使用された）も同様であり、また劣化ウラン弾がユーゴスラビアとアフガニスタンに雨あられと使用されたことも、今さら言うまでもないだろう。イスラエルもそうだ。イラクが本当に核兵器を所有しているのならば、その権利はもちろんあるが、それはアメリカの侵略を抑制するのに役立つだろう。ブッシュはフセインが自国民に対し化学兵器を使用した事があると主張している。イラクは1980-88年のイラン・イラク戦争の際、マスタードガスやVXガス、その他の化学兵器を使用したことが、それらはアメリカが供給したものであり、イランの衛星写真撮影や偵察などでもアメリカがイラクに協力していたのは明らかだったが、アメリカはそのような事をいっさい公表しなかった。「ニューヨーク・タイムズ」（8月18日）は、この秘密の計画の存在が取り上げられたが、それはすぐに忘れ去られてしまった。「タイムズ」は化学兵器計画を始動させるためにアメリカがイラクに「シード・ケミカル」も供給していたという事を公表しなかった。

アメリカの支配者のシニシズムはとどまるところを知らない。「民主主義を進めている」などと幾度となく宣言しておいて、アフガニスタンを帝国主義者の保護国とした後（カルザイ大統領は米軍によって握り人形と化した）、ホワイトハウスは長期にわたって米軍占領政

府をイラク内に置くつもりでいるのだ。「マッカーサー将軍が降伏した戦後の日本を統治したように、トミー・フランク将軍がその役割を引き受けるだろう」（「ニューヨーク・タイムズ」10月11日付）。すなわち彼、フランク将軍は、イラク人の運命を左右する全能の独裁者となるのである。このことを、オーウェル流の婉曲な言い回しで「統治の変化」と、ブッシュは演説の中で言ったのである。フセイン政権が大量破壊兵器を所有しているという仮説が飛び交う中で、ペンタゴンは「戦術」核兵器をイラクに対し使用する準備をしている。「アメリカ・ニュース・アンド・ワールド・レポート」（7月22日付）は次のように述べている。

「ペンタゴンの核兵器教団の信徒たちは、地下壕を破壊するために地中貫通型の核弾頭が使用されるかもしれないと信じている。この核政策の劇的な変化は、イラクのような、ならずもの国家に対するブッシュ政権の軍事政策が、先制攻撃と、遠隔操作の核爆弾の使用に傾いてきている事の証拠である。」

ちょうどドイツ・ナチスがスペインの市民戦争で、戦闘機のメッサーシュミットとユンカーの急降下爆撃のテスト試験をするために、共和国の支持者たちを殺し、ゲルニカを破壊したように、ヤンキー帝国主義者はイラクの砂漠で、さらには市街地でも、新しい核爆弾のテストをしようと思っているのだ。1991年の湾岸戦争の際、米軍のGBU-27地中貫通型爆弾によって、アル・アミリヤの防空壕に避難していた400人以上の女性や子供たちが殺されたことを、忘れてはならない。

ワシントンの有力者のうち、決して誰も政府の戦争を始める理由を信じていない。「ニューヨーク・タイムズ」（10月9日付）によれば、上院情報委員会への機密報告書は、イラクはアメリカに対して「テロリスト攻撃を行う事を検討している」としているが、フセインが大量破壊兵器を使用する可能性は、もしアメリカが何も挑発しなければ低いが、イラクが侵略されれば高いだろうという事は、その中でCIAでさえ認めているのだ。イラクとの戦争をもっとも強力に後押しするのは、ハロルド・ 그레이の「小さな孤児アニー」に出てくるダディー・ウォーバックスのカリカチュアの様な兵器会社や、軍事施設建設会社、および石油会社のようなホワイトハウス内部に力を拵げている勢力だ。彼らは、戦争はビジネスにとって好都合なものと考え、下落を続けるダウ・ジョーンズ株価指数を戦争が引き上げるかもしれないと考えている。ブッシュ政権のスポークスマンは、戦争は2週間から2ヶ月間の間に終わると保証したが、議会予算事務局は3ヶ月で440億ドルかかるだろうと見積もっている（「ウォール・ストリート・ジャーナル」10月1日より）。

今回の戦争がすぐに終わり、安くつくと考えている人々にとっては非常に驚きかもしれないが、たとえ米軍がすべての抵抗を圧倒する事ができたとしても、帝国主義による占領は何年も長引くだろう（ブッシュ1世が戦争をするためにNATOと日本から金を巻き上げたその地で、ブッシュ2世は戦費をまかなうために、イラクの石油生産から金を吸い取ろうとしている。巨大な規模で行われる一種の影響力に基づく買収行為である）。

帝国主義者を打ち破る闘いは、イラク国内だけでなく国際的に、特に帝国主義者諸国、とりわけアメリカで遂行されなければならない。秋の中間選挙の開始と時を同じくして、なぜ9月からブッシュ政権は急に戦争への動きを加速し始めたのかとの問いに、ホワイトハウスは「市場の観点から見て、8月には何も新製品が無いから」と冷笑的に答えた。民主党のリーダーたちは、サダム・フセインに対して弱腰だと非難されると、おそらく驚いて死人のようになってしまうだろうことを、ホワイトハウスは見抜いている。しかし、市場をめぐる戦争は歯磨き粉を売ると全く同じだと考えているような連中は、まさに彼らをごまかしていると思っているその人々から叩き起こされることになりうる。この戦争に対する大衆の支持は、非常に薄く脆いものなのだ。

イラク戦争は世界大戦の引き金になる

我々インターナショナリスト・グループと第4インターナショナル再生をめざす同盟は、昨年アフガニスタンへのアメリカの攻撃を打ち破ることを呼びかけ、ブッシュの「対テロリスト戦争」が帝国主義戦争を起こす引き金になると警告した。

「1908-1913年のバルカン戦争が第1次世界大戦を誘発したように、また、スペイン

ンの内戦や日本の中国侵略、およびイタリア帝国主義のエチオピア（アビシニア）戦争が第2次世界大戦を引き起こしたように、イラクやユーゴスラビアそしてアフガニスタンでの過去10年来のアメリカ率いる帝国主義者による戦争は、資本家の間の競争をより加熱させ、第3次の世界的大火災を発生させる可能性がある」－2001年秋「インターナショナルリスト」12号。

特にブッシュの「先制攻撃」論によって、第2次イラク戦争は世界大戦への動きの加速化を急激にエスカレートさせる。帝国主義国間の経済的緊張の高まりは、「列強国」間で激しい衝突を引き起こす可能性がある。そして、かつての反ソ連邦戦争時代には同盟国だった国同士が、敵対を増していくことになるだろう。さまざまな改良主義者達は、湾岸戦争の恐怖と10年以上にわたる国連の経済制裁下でのイラクの人々の苦しみを各々の新聞－「ピープルズ・ウィークリー・ワールド」（CPUSA）、「ソーシャリスト・ワーカー」（ISO）、「ワーカーズ・ワールド」（WWP）－で報告する一方で、最初にイラクへの制裁を訴えた民主党のリベラル派とブロックを組み、その自らの裏切りに対しては、都合よく無視しているのだ。

アメリカ帝国主義の戦争の目的とは、メソポタミアの「文明発祥の地」を掌握し、その地の石油から上がる富を自分のものとするだけではない。昨年、アメリカ副大統領チェイニーは、国家を上げた「テロとの戦い」が、国民の繁栄にとって必要であると宣言した。そして今、ブッシュ政権はアメリカ帝国主義に対抗する国に対し、「先制攻撃」という軍事ドクトリンを発表した。9月にはブッシュの国家安全保障戦略として、「アメリカは敵国が完全に武装する前に攻撃をしかける」と宣言した。その方策とは、「ひとつの国家の持続可能な成功モデルとは、自由、民主主義そして自由な企業であり、古い型の列強の競争をできるだけ新しくしていく事である」とし、さらに「ソビエト連邦の崩壊から10年以上続くアメリカ経済の大きなリードに他国が追いつくような事を、大統領には認める意向は無い」（「ニューヨーク・タイムズ」誌9月21日から引用）と宣言した。テキサス州ラボック市出身のブッシュは、「我々の軍事力は、アメリカの力に追いつこうとする潜在的な敵国を思いとどませるには十分に強力である」と、文書の中で「ラドック市の少年達」にも理解できるようなマッチョな書き方で宣言している。

オサマ・ビン・ラディンやサダム・フセイン、そしてアフガンのタリバン政権やイスラムの「聖戦の戦士たち」については、その文書では明らかに言及されていない。ワシントンは、アルカイダであれ、その他、現在ブッシュが「悪の枢軸」にリストアップしている諸国であれ、小突いてきた。しかしむしろ、真の標的は、中国の官僚的に歪められた労働者国家、ソビエト連邦の崩壊から出現した資本主義ロシア、およびワシントンの傲慢な振る舞いが気に食わないヨーロッパ NATO 帝国主義者達である。薄いベールに包まれた反革命の呼びかけの中で、国家安全保障戦略文書は「中国のリーダーは今後の国家としての基本的な選択をまだ決めていない」とし、また「さらなる軍事力の追求は、アジア太平洋地域の中で、中国の隣国を脅迫する事につながる」と北京に警告している。我々は何度も警告する。アメリカ帝国主義は中国、キューバ、北朝鮮、ベトナムという現存する歪められた労働者国家を破壊し、第3次世界大戦への道を猛烈な勢いで突進している。最終的には、ワシントンは、西ヨーロッパの経済的発電所が、復活したロシアの軍事力・核兵器の力と大量の石油・ガス資源と結合する事を恐れているのである。

これは新しい強迫観念ではない。数十年にわたる冷戦の中で、アメリカは「共産主義の脅威」に対する共通の意識を強調することによって、他の帝国主義国を抑える事が出来た。レーニンとトロツキーの率いる1917年10月の革命から誕生したソ連邦労働者国家は、たとえば、スターリンと彼の後継者達による「一国社会主義」という保守的で民族主義的なドグマの下で、ソ連邦が官僚的に墮落させられた後でさえ、トロツキストが粘り強く防衛しようとした世界プロレタリアートの獲得物だった。まさにソ連邦の存在によって、ワシントンにとってはソ連と同盟を結んだ「第三世界」民族主義政権の一扫が、困難になっていたのだ。だが、もはやソ連邦は存在しない。ソ連圏諸国の政権は、帝国主義の無慈悲な経済と軍事の圧力の下で崩壊していった。この崩壊は、裏切り者のスターリン主義官僚が追求した裏切りのな「平和共存」政策によって準備されたのだ。ジョージ・ブッシュ1世は、第1次湾岸戦争の際に「共産主義の死」と新世界秩序の誕生を宣言した。しかし、アメリカが「単独の超大国」として出現した一方、アメリカの打ち出したアメリカ支配の新秩序が根付く事はなかった。代わりに、ポスト・ソビエト世界には「無秩序」がはびこり、怒れる民族主義者達によ

る流血と帝国主義戦争が繰り返されたのだ。

ブッシュ・ジュニアは、父と、そして現在世界的なアメリカ帝国を樹立しようとしている人々の下であって、ソ連邦への攻撃をリードした冷戦の戦士達のチームの表看板だった。今日、米軍は世界130カ国以上に軍隊を配備している。その目的は、1993年1月、当時のアメリカ陸軍長官ディック・チェイニーによって書かれた「1990年代の国防戦略」に記述されている。それはブッシュ・ドクトリンの前兆だった。チェイニーのこの文書の焦点となっているのは、「いかなる強敵も我々の支配する重要な国（ヨーロッパ、東アジア、中東、湾岸地域そしてラテン・アメリカ）を守るためには排除する」という事であり、そして、「アメリカおよび同盟国の利益を害する世界的な脅威に対しての防御を強化する」事だった。ブッシュ王家二番目の政府の「単独行動主義」は、すでにこの文書に描かれており、それによると、アメリカは「自らの重大な利益を国際的メカニズムにもっぱら依存させてはならない」というものだった。この文書の草案を起草したのは、ポール・ウォルフowitzとルイス・リビー、及びエリック・エドلمانだったが、彼らはブッシュ2世の「国防」思想のイデオログである。

このアメリカ帝国主義の軍事戦略が示す姿勢が、イラク戦争に対して国連又は国際的な同意を得られるかどうかに対するワシントンの無関心さの背景をなす。ブッシュは、いかにアメリカの軍事力が強力で、残りの国々は非力かということの世界にアピールしたいのだ。アメリカにはペルシャ湾の石油は必要ない。アメリカ全体の石油消費のうち、この地域から供給されているのはわずか12%に過ぎない。ヨーロッパや日本もしくり。アメリカの支配者は、中東諸国の石油供給を意のままに断絶出来るということ、明確に示したいだけなのだ。同時にブッシュ政権は、鋼鉄輸入関税の保護貿易論者を強制的に黙らせ、アメリカの農業関連産業への巨大な補助金を維持しておきながら、「自由貿易」の美德を宣言している。この事はNATOの同盟国を驚愕させた。フランスのジャック・シラク大統領は、国連安全保障理事会のイラク協議で、ワシントンの要求に対して断固として譲らなかつた。ドイツのゲルハルト・シュレーダー首相は、国連がイラク戦争を承認してもしなくても、自分はイラクへの侵略に参加しないと宣言し、それによって自らの再選を勝ち得た。しかし、これは単にうわべだけの姿勢にすぎない。と言うのは、結局彼らは、アメリカによって要求された行動を、共に行うだろうからだ。しかし、彼らヨーロッパの帝国主義者達は、侵略後にアメリカがイラク油田を独占することを心配しているわけではない。ブッシュ・ドクトリンの標的が自分達だということ、彼らは理解しているのだ。

2001年9月11日のテロの直後に我々が警告した通りに、アメリカ、西ヨーロッパ、その他の帝国主義諸国での「テロリズムとの戦争」は、警察国家による抑圧の劇的なエスカレーションをもたらした（「インターナショナリスト」2001年秋12号「アメリカの帝国主義戦争への逆上 — 警察国家への突進」）。ブッシュ政権はこの戦争を、労働組合の権利を攻撃するために利用しようとしている。彼らは「外国人」を裁くために軍事裁判所を置き、アメリカ人の市民に対して敵との烙印を押し、また何百何千という難民を強圧的に調べたあげく、告訴さえせずに国外追放し、ハイテク・スパイ産業に巨額の税金を投入し極悪の「安全保障」方策を導入し、国民を統括するために「統合軍事司令部」を設置した。アメリカ政府は、最初に「祖国安全保障」省を提唱した民主党の完全な参加を得て、全体として国を包囲して統治するための布石を意図的に打っている。警察国家と帝国主義戦争への突進を打ち負かすには、戦争と人種差別主義の双子の資本主義政党（民主党と共和党）、さらに緑の党のようなブルジョア小政党とも手を切った革命的労働者党を、第四インターナショナルを再建する闘いの只中で建設することが必要である。

帝国主義戦争に反対し階級戦争を—国際社会主義革命のために！

帝国主義に反対する闘いへのマルクス主義的なアプローチは、第1次世界大戦の時にレーニンとロシア・ボルシェビキにより行われたが、「社会主義」第2インターナショナルは不名誉な降伏に直面し、その主要な各国の党は帝国主義諸国が各々行う殺戮の中、自国の資本家階級の背後に整列した。レーニンが公然たる改良主義者と動揺する中間主義者とに対する闘いの中で強調したのは、帝国主義国間の戦争において「自国の」ブルジョアジーの敗北という立場に立つこと、植民地支配からの独立を求める戦争においては、植民地、半植民地の人民の側に立つことが、革命的社会主義者には必要だということだった。インターナショナルリスト・グループは彼の論文「社会主義者と戦争」（1915年9日）をパンフレットとし、

て発行したが、その中でレーニンは次のように書いている。

「現在の戦争で自国の政府の勝利を擁護する者も、「勝利でも敗北でもなく」スローガンを擁護する者も、共に社会排外主義の観点に立っている。革命的階級は反動的な戦争の中で自国政府の敗北を望まざるを得ないし、自国政府の軍事的失敗にともなって、政府を打倒することが容易になると見なさざるをえないのである。」

「平和を愛好する大衆の感情は、初期の抗議、怒り、戦争の反動的な性格を意識することとして、しばしば現れる」とレーニンは書いている。しかし、レーニンは次のように述べた。これらの感情に社会主義者が交わり、抗議運動やデモに関わる一方で、「併合や政府の圧制、奪略のない、また、政府や支配層が新しく戦争を起こす可能性のない平和な社会が、革命運動なしに可能だと言って人々をだますことは、社会主義者はしないであろう」と。レーニンとトロツキーの下、ボルシェビキはこの綱領に基づいて10月革命を遂行した。レーニンが強調したのは、国際社会主義革命が真の平和を実現するということだった。

世界中の様々な「平和運動」の組織者の政策は、この革命的な綱領とはまったく正反対だ。彼ら自身はブルジョア民主主義の中において、隠然または公然と、資本主義的あるいは親資本主義勢力に戦争を止めろと要求しているだけだ。10月26日、アメリカでは、ラムゼイ・クラークが設立したインターナショナル・アクション・センターと労働者世界党とが主導権を握る国際 A. N. S. W. E. R. 連合が後援する反戦デモが行われた。このラムゼイ・クラークは、かつてリンドン・ジョンソンの下でブラック・パンサー・パーティーに対する殺人的な COINTELPRO（敵対情報活動計画：COunter INTELigence PROgrams）戦争を統轄した、あのラムゼイ・クラークと同一人物である。国連安全保障理事会のメンバーへの7月29日の手紙でクラークは、「イラクに対するアメリカの継続的な脅迫を非難せよ。アメリカに、その脅迫の即時中止を求め、イラクに対する攻撃は国連憲章への侵害であると警告せよ」と呼びかけた。

国連が戦争の犬、アメリカを従わせることができるという考えはレーニンが警告した通り、一種の詐欺である。に近く、レーニンが警告した通りのものです。これは、ブッシュのサダム・フセインへの「テロとの戦い」に対置して、さらなる国連「査察」を求める民主党の政治家を満足させるものだ。アフガニスタンとイラクに対する攻撃は、共に戦争であるという点で同じという事に、異論の余地はない。また、国連の「査察官」の任務は、そのことをいっそう引き立たせることだろう。国連の制裁は第1次湾岸戦争を勃発させたし、その後ずっと続くイラク人民の疲弊と殺害をもたらした。朝鮮戦争からユーゴスラビアでの戦争まで、国連はアメリカの侵略をそうでないかのように紛らわしてきた。そして今、その結果が何であれ、新たな国連での「討論」は再びイラクだけでなく、パレスチナでも大量の死者や破壊を導くものとなるだろう。アメリカがバグダッドを爆撃している際に、イスラエルの殺人鬼アリエル・シャロン首相は、西岸やガザ地区といったパレスチナ自治区のアラブ系住民を大量に追放（シオニストによれば、それは「入植」と呼ばれるらしい）している。我々革命家は、イラクに対する国連のあらゆる制裁と査察の中止を要求する。アメリカと国連の全ての軍隊は、今すぐ中東から撤退せよ！

国連に対しアメリカを従わせるよう要求するのがグロテスクだとすれば、ヨーロッパ大陸のリベラルな改良主義者の多くがやっているように、アメリカ「カウボーイ」の言いなりになっているヨーロッパの帝国主義諸国にアメリカを従わせるよう要求するというのは、まったく話にならない。イグナシオ・ラモネは、フランスのブルジョア的「反グローバリゼーション」団体だが、「ル・モンド・ディプロマティック」（2002年10月）の中で次のように書いている。

「帝国は同盟国を持たない。持っているのは家臣だけである。ヨーロッパ連合の多くの帝国主義国はこの歴史上の事実を忘れてしまったかのように見える。ワシントンのプレッシャーの下で、我々の目の前で彼らが無理やりイラク戦争に参加させられ、一つの国として独立している国家であるのに、お供をさせられているかのように見える。」

ラモネはNATOに対し、「新しい帝国の時代のこの最初の戦争」を阻止するように、明らかに要求している。「ヨーロッパ」に対し、「NATOが、アメリカ帝国の拡大のためにワシントンが当てにする軍事的道具となることを阻止し、軍をどう用いるかはヨーロッパ諸

国が投票すべき課題である」と呼びかけているのだ。しかし彼ら帝国主義諸国は、ユーゴスラビアとアフガニスタンでの戦争で、すでに自らの手を血で染めてしまっている。この二つの戦争にラモネが言及しなかったのは、これらの戦争が、程度の差はあれ「反グローバル主義者」によって大規模に支援されたからだ。そして彼らは、まさに「平和」のための勢力とはなっていないのである。このような勢力やアピールに加担することにより、フランスのLCR（革命的共産主義者同盟）の様なヨーロッパの偽のトロツキスト達は、第一次世界大戦の時に社会民主主義者が行ったように、自国のブルジョアジーと共に列を組んでいるのだ。

真のトロツキストは、イラクが大規模なアメリカの兵器の火力に直面している戦場においてだけでなく、世界中であらゆるブルジョア勢力から独立した労働者階級の力を動員する事を通じて、帝国主義の敗北を呼びかける。アメリカによるイラクの征服は、イスラム諸国の不安定な恐るべき「旧体制」の老衰を早める事を可能とするかもしれない。反動的なイスラム原理主義勢力がこの不安定な状況を利用しようとするかも知れないが、しかしこのような根深く腐敗した政権に反対する力を、イスラム原理主義勢力が独占するということはないだろう。プロレタリア国際主義者は、階級という線に沿って闘争に提起する綱領を持って、戦争により不安が絶えない社会に介入しようとするだろう。アルジェリアでは、昨年ベルベル地方で宗教色のない若者やマイノリティが暴動を起こし、それは一時その地方を席卷したが、現在は収まっている。しかし、カビリアで大規模な選挙ボイコット運動がおきたように、闘いは完全に排除されてしまったわけではない。パキスタンでは、アメリカ軍を後ろ盾にしたムシャラフ大統領の独裁制に対抗してきた労働組合が、ジハード（聖戦）を唱えるイスラム教徒としばしば衝突した。トルコでは、かなり大きな左翼主導の組合と、多くの自称社会主義者グループがある。インドネシアでは、イスラム原理主義者と連合した軍閥がメガワティ大統領の政権を脅かし、スハルト独裁政治の崩壊に力となった反対派の労働者運動は、闘う姿勢をとっている。問題なのは、帝国主義戦争に対しどれだけ大きな反対運動ができるかどうかではなく、いかなる階級の綱領が確立されるかなのである。

アメリカ、イギリス、そしてその他戦争に巻き込まれるすべての国で、トロツキストは労働階級の人々に戦争への動きに反対する行動を呼びかける。それは、軍需物資の輸送を組合のピケットで阻止したり、アフガニスタンとイラクからの軍の撤退を要求したり、また帝国主義戦争に反対するストライキ行動に労働者が着手するといった事だ。共産主義者は、資本主義政治家の「タカ派」と「ハト派」両方とも戦争屋であり、スト破りであり、搾取され抑圧された者の敵であると指摘しつつ、「反戦」集会でブルジョアの政治家やスポークスマンの存在に精力的に抗議すべきである。アメリカで、西海岸のILWU（港湾労組）の港湾労働者に対し、ボス達がタフト・ハートレー奴隷労働法を適用したことは、階級闘争と帝国主義戦争に反対する闘いの結びつきを、直接的に提起するものだった。ピケットラインに配布した一連のリーフレットの中で、インターナショナリスト・グループはストライキ行動と結びつけて港の封鎖を行い、軍需物資輸送を阻止せよと呼びかけた。

インターナショナリストグループがロックアウトの間、港湾労働者のピケットラインに連日登場していたのに対し、その他多くの左翼グループは10月5日の連帯集会に姿を見せた位だった。国際社会主義組織（ISO）と労働者世界党（WRP）、ソーシャリスト・アクションは、それぞれの人民戦線的「平和」イベントを追求していた。ILWUへのロックアウト攻撃に関する記事の中で、スパルタシストは軍需物資の件に触れなかったし、まして軍需物資ボイコットには言及しなかった。彼らの機関紙「ワーカーズ・バンガード」（10月4日付）の1面記事の中でも、組合のリーダーであるジム・スピノーザ（手旗信号で「反テロリスト」スローガンをストライキに持ち込もうとした）についての批判は、なかった。港湾労働者にタフト・ハートレー法適用を拒否せよと呼びかけもせず、また港湾労働者以外の労働者に、奴隷労働法に対しストライキをするように訴えることも、彼らはしなかった。さらに彼らは、国際的な港湾労働者の連帯行動が必要だという点について、一言も述べはしなかったのだ。

このスパルタシストは、長年にわたり革命的トロツキズムの政治のために闘ってきたし、依然としてそうであると自称している。しかし、2001年秋、政府によって煽られた「反テロリスト」ヒステリーの最中、彼らはアフガニスタンの防衛を呼びかけるのを何週間もためらい、アフガン戦争中には、アメリカ帝国主義の敗北を呼びかけるのを頑固に拒否した。我々インターナショナリスト・グループと第4インターナショナル再生を「革命についての

決まり文句を連ねるだけの連中」と呼ぶ彼らは、レーニン主義の政策を強調する代わりに「反米主義」に迎合している。（同時に、スパルタシストはブッシュに非常大権を与える投票に反対した典型的な民主党ハト派バーバラ・リーに、歓呼の声を送った。しかしその裏で、彼女が400億ドルにのぼる戦時予算計上に賛成票を投じた事実については、何週間も沈黙を守っていたのだ）。スパルタシストは次のように主張した。彼らにとって国際的な義務とは、戦時に「国内の階級闘争」を呼びかけることだ、と。ILWUへのロックアウトは、この彼らの主張が何を意味しているのかということを示す絶好の機会を提供したはずだが、彼らスパルタシストは、ピケットラインにはめったに登場せず、港湾労働者の闘いが戦争と交差するあらゆるシグナルに、自分たちのプロパガンダを合わせることを避けたのだ！！

ベトナム戦争の初期の頃とは対照的に、イラクとの戦争に関して労働運動は既に広範な規模で揺れ動いている。8月に開かれたワシントン州 AFL-CIO の協議会は「戦争、市民的自由に対する攻撃および公共事業のカットに対する反対決議」を可決した。それはナショナルセンターAFL-CIO 中央のこの利益追求型の戦争に対する無批判的な支持を、鋭く批判するものであり、合衆国愛国法の廃止と、同じく「反テロリズム」諸方策をなくす事を呼びかけ、「政治活動や組合運動や、反グローバリズム運動の活動家へのFBIスパイ行為への協力を拒否し、アラブ系その他の移民や米国における非白人へのINSによる嫌がらせに依る事を拒否し」、「今なお拘留されている何百人もの中東、アラブ系その他の移民の即時釈放を要求し」、「アメリカ政府の公然たる終わりなき『テロリズムとの戦争』に反対する」というものだった。労働官僚が急に「アカ」の温床へ変わったと思われる事を恐れて、決議は結局、「戦争を止め、企業への施しと軍事予算から職を失った労働者に金を回すよう、ブッシュ大統領と議会に圧力をかけよう」との呼びかける事で終わってしまった。

これは古典的な「バターか大砲か」の社会排外主義者のレトリックだ。彼ら、社会排外主義者の本当の関心は、戦争にかかる国内のコストが、彼らの階級協調主義の構図にとって妨げとなるかどうかだ。そして彼らは、アメリカが準備している巨大な戦争犯罪の犠牲者と再びなろうとしているイラクの労働階級の立場には、あえて立つ事はないだろう。さらに、戦争に地方の民主党が反対を表明してきているという事実がなかったら、この動議（サンフランシスコ労働組合協議会もワシントン州と同様の決議を可決）が採択されることは、なかっただろう。下院民主党議員による投票において、126対81で戦争権限決議に対する反対が勝った事実は、この国で意見が真二つに分かれているということを示している。（最近の調査では、かろうじて51%が戦争に賛成、仮に戦争で5000人の犠牲者が出たらとの問いには、戦争賛成は33%まで減る。「ベトナム・シンドロームの死」の早まった表明にもかかわらず、戦争への賛成はこれだけなのだ）。しかし、下院民主党議員は、「彼らの投票を全ての軍事的行動に対する単なる平和主義の抵抗としてだけではなく、アメリカ一の単独行動に対し、国際的な力が必要との意見の相違として、この投票結果を描くことに苦労した」（「ニューヨーク・タイムズ」10月11日付）。際限の無い「テロリズムとの戦争」よりも、彼ら民主党は本当の敵はビンラディンでありフセインではないという議論に、もっと焦点を合わせたいだけなのだ。だが我々に言わせれば、敵はアメリカの帝国主義である。アメリカ帝国主義こそ、あらゆるテロリスト勢力よりも、はるかに殺人的なテロリストなのだ。

イラクとの戦争とアメリカが支配する「新世界秩序」に反対する闘いは、帝国主義システムに対する闘いであるべきだ。そしてこのシステムは、ただ国際社会主義革命によるのみ、一掃されることができる。それは、あらゆるブランドのブルジョア民族主義と宗教的反動に反対し、プロレタリア国際主義の立場に立つ事を意味している。中東でトロツキストは、アラブ・ヘブライ労働者国家—あらゆる宗教に基づく国家（「ユダヤ人国家」であれ「イスラム国家」であれ）とは反対に、この狭い地域に群れをなす人々の民族的権利を共に認める国家—に向けた闘いの中で、シオニストの占領に対して包囲されたパレスチナ人民を防衛する。

イラクでも同様に、血塗られた独裁者サダム・フセインを追い出すよう労働者の革命のために、我々は闘う（サダム・フセインはアメリカの援助によって就任し、CIAから殺すべき共産主義者のブラックリストを提供され、ホメイニのイランと戦争をするためにペンタゴンから武器の供給を受けていた）。この革命は、イスラム教徒多数派のシーア派、少数派のスンニ派、クルド人、トルコ人、およびその他の少数民族出身の労働者、農民を一つにする

だろう。現在の国境が、第1次世界大戦後、オスマン帝国を帝国主義が分割する事で確立されたことを考え、我々共産主義者は、統一クルジスタン社会主義共和国の樹立を呼びかける。

この地域のどこであれ、勝利した労働者革命はイラン国王およびムッラーの独裁の下で憤慨するイラン労働階級の人々に解放の展望を与える一方で、サウジアラビアやモロッコのような今にも崩れそうな君主国、イラクやシリア、トルコ、エジプト、リビア、アルジェリア等の民族主義者による軍事支配政権、クウェートやバーレーン、カタール、オマーン等の帝国主義によって守られている石油輸出国の支配層にとっての吊鐘を打ち鳴らすことになるだろう。イスラエルとパレスチナおよびその他レバノンのような国々に存在する解決困難な民族と地域の分割、民主主義の権利、および石油と水のような稀少資源に関する議論は、中東社会主義連邦の枠内でのみ解決することができる。特に女性にとって、中東社会主義連邦樹立が、全面的な社会的解放を可能とするだろう。帝国主義者達が「文明の衝突」について語る事で、民族的敵対を煽っているが、共産主義の綱領のみが、「分割して支配する」という植民地時代の遺物を克服できるのであり、常に文明の十字路にあったまさにそのために、地域ごとに分割されたあらゆる民族や人々全てを一つにまとめることができるのだ。

アメリカの帝国主義打倒！ イラク防衛！ 国際社会主義革命のために！

インターナショナリストグループ、第4インターナショナル再生をめざす同盟への問い合わせは：internationalistgroup@msn.com

[インターナショナリストのホームページへ戻る](#)